

屏風ヶ浦のAR表示



屏風ヶ浦遊歩道にある「屏風ヶ浦の火山灰と関東ローム層」の看板の左に、新しく設置されたQRコードがあるので、そこでスマホをかざり、指示通り操作すると、崖の画面の上に火山灰層の年代と説明が重なって出てきて、とてもよく理解することができます。いつものフリックを使いながらの説明が、さらにわかりやすくなったと思います。この説明画面は、この場所、この背景でないと見ることはできないので、画面の下にある「カメラマーク」をタッチすると画像をスマホに保存することができます。



す。火山灰層の成り立ち、屏風ヶ浦の成り立ちを理解するには、とても良いツールができたと思います。

高田川にもチャビニアンの説明を入れたARが設置されています。こちらは夏には草が生えて地層が見えにくくなっていますので、効果抜群です。どちらも専門員の方々の指導を受けながら活用していきたいと思えます。市民の会会員の皆さんも是非とも現地で確かめていただくたく、お勧めします。

大阪城とジオパーク的視点

松家 英彦

昨年末に大阪に引越し、大阪観光の代名詞である大阪城を勉強中で、ジオパークの視点から大阪城を見てみようと思いました。

大阪城は大阪平野の中央部を南北に走る上町台地の北端にあります。上町台地は約100万年前頃に隆起によりできたもので、これは300万年前に起こったフィリピン海プレートの動きが北上から北西方向に変化に伴う前弧スリパーの西進によって、淡路島や家島・小豆島や大島・因島などが形成されましたが、同様の影響を受けて上町台地も隆起したのではと私は推測しています。6〜7世紀には、この上町台地の北端には淀川の支流や大和川が流れる難波津という水運の要所がありました。当時の遣隋使の船は、ここを

經由して出航しました。また、乙巳の変の後

に孝徳天皇により都が飛鳥からこの地に移され難波宮が造られ、大化の改新が進められました。それ以降、この地には石山本願寺、豊臣大坂城、徳川大坂城と重層的に歴史・文化が存在しました。大阪城の最大の特徴は日本一の高さ34mの石垣で、ほぼ大吠埼灯台と同じです。また、算木積みと切込みはぎといった石積みの技術が使われた石垣構築技術の完成形と言われています。



南外堀の屏風折れ

石垣の総延長は12kmで、

主に瀬戸内海の島に存在する領家変成帯の花崗岩を使って作られました。南外堀の石垣の風景は屏風ヶ浦を想い起させ、その名も「屏風折れ」と呼ばれています。



手前が金蔵、奥が天守閣

また、本丸には徳川幕府の御用金を保管した金蔵(重要文化財)があり、幕末に榎本武揚がここから軍資金として18万両を持ち出し、その軍資金を積んだ船が沈没したと言われています。これは、銚子沖で沈んだ美加保丸につながる話かと思えます。銚子との係わりもある大阪城に一度足を運んで頂き、花崗岩の美しさを味わって頂きたいと思えます。

夏のジオ俳句

元氣だせ

入梅いわし 銚子港

水揚げ数量では全国トップクラスの銚子港。ひと昔前までは秋のサンマ漁が中心でした。「この漁が終えて銚子に冬が来る」昔読んだこの句を思い出します。今の銚子はサンマに代わっていわし漁が中心です。

保立 得造

心地よさ

草いきれ無し 君ヶ浜

出口 節

西日射す

屏風の崖が 美しい

季語は「西日」で天文。夏の午後は、西日が強烈で耐えがたい。ジオサイトは、屏風ヶ浦。海食崖は、国の名勝及び天然記念物で、見学者も多い。新生代の地層の景観は、壮大で美しく輝く。

石嶋 博行